



第2編 基本計画

第1部 基本計画の策定にあたって

第2部 分野別施策

第1部 基本計画の策定にあたって

1 基本計画の位置づけ

第2次御前崎市総合計画基本計画（第2次基本計画）は、新たに策定された第2次御前崎市総合計画基本構想（第2次基本構想）に基づき、市の将来都市像を実現するための基礎となる計画として、本市全体の目標や方向性を示すものです。

【基本構想】

将来都市像		人口ビジョン	
子どもたちの 夢と希望があふれるまち 御前崎		平成37(2025)年	平成47(2035)年
	人 口	31,275人	30,005人
	出生率	1.8	2.07
分野別基本目標			
美しい自然を次世代へ引き継ぐ 安全・安心なまち	働く場所とにぎわいがたくさんあるまち		
市民協働による居こちのよいまち	郷土を愛し 未来を創る 人づくり		
すべての人が健康で安心して暮らせる 支え合うまち	市民とともに経営する自律したまち		
土地利用			
都市構造と土地利用の基本方針			

【基本計画】

基本目標	政 策	施 策
美しい自然を 次世代へ引継ぐ 安全・安心なまち (くらし環境)	① 豊かな自然環境の保全	① 自然特性を生かしたエネルギーの利用推進 ② 自然環境の保全と環境学習の推進
	② 快適な生活環境の整備	① 住みよい環境衛生の整備 ② きれいな水を守る生活環境の整備 ③ いつでもどこでもおいしく飲める水道水 ④ 地域を結ぶ移動手段の確保
		① 交通事故のない環境づくりの促進 ② 犯罪のない安全安心なまちづくり ③ 災害に強い防災体制の整備と周知 ④ 消防・救急救助体制の充実 ⑤ 原子力に関する正しい知識の普及
		① 市民の憩いの場となる公園管理 ② 土地の有効活用による生活基盤の充実
	③ 安全・安心な地域づくり	① 地震に強い住宅改修の整備推進 ② 安全・安心な道路路網の整備 ③ 道路施設の耐震化の推進 ④ 道路施設のメンテナンスサイクルの確立 ⑤ 道路路の協働による管理・保全の推進
		① 子どもを安心して産み育てることができる環境づくり ② 子どもを守る体制づくり
		① 自ら健康管理ができる環境づくり ② 住み慣れた地域で自立した生活ができる環境づくり ③ だれでも安心して過ごすことのできる生活環境整備 ④ 生活困窮からの脱却へ向けた体制づくり
		① 広域での診療体制づくり ② 地域医療の確保と連携強化による医療体制づくり ③ 子どもからお年寄りまで安心できる病院体制
		① 生涯を通じた体づくり
市民協働による 居こころのよいまち (都市基盤)	① 市民がくつろげる空間の保全と充実	① 海の特色を生かした観光の推進 ② 日本の原風景を味わえるスローライフの提案
	② 災害に備えた生活基盤の充実	① 未来を担う人・組織づくり ② 持続可能な農業生産基盤づくり ③ つくり育てる漁業の推進
	③ 道路施設の長寿命化体制の確立	① 創業・起業支援 ② 既存産業の成長支援と地域特性を生かした産業の創出
	④ 安心して出産・子育てができる環境整備	① 人が集まるにぎわい空間の創出
		① スクラムによる園・学校・家庭・地域の教育力の向上 ② 地域ぐるみで取り組む青少年健全育成の推進
すべての人が健康で 安心して暮らせる 支え合うまち (健康福祉)	② 心と体の健康づくり	① 御前崎を愛し知・徳・体の調和のとれた生き抜くための 資質・能力の育成 ② 主体的な遊びを通して人として生きていく力の基礎の育成 ③ 安全で充実した教育環境の整備 ④ 安全で魅力ある学校給食の提供と食育・地産地消の推進
	③ 地域が一体となった介護体制の整備	① 楽しく学び積極的に参加できる生涯学習の推進 ② 郷土の誇りである文化財の保存と活用 ③ 市民とともに考えともに歩む図書館づくり
	④ だれもが社会参加できる環境整備	① 市民や団体が主体となり活躍できる地域づくり ② 市民の期待に応える人材の育成 ③ 効率的で柔軟性のある組織づくり
	⑤ 信頼される医療体制の確立	① 安全・安心で最適な公共施設の運営 ② 経営感覚を生かした財政運営 ③ 市民の利便性を高める情報化への環境整備 ④ 市民ニーズにあった情報の提供と共有 ⑤ シティプロモーションの推進
	⑥ 生涯スポーツの推進	① 広域的な課題解決への対応
	働く場所とにぎわいが たくさんあるまち (経済産業)	① 豊かな自然を生かした観光の推進 ② 特色を生かした農水産業の振興 ③ 元気ある商工業の振興 ④ にぎわいのある港の創出
郷土を愛し 未来を創る 人づくり (教育文化)	① スクラムで推進する御前崎の教育	① 楽しく学び積極的に参加できる生涯学習の推進 ② 郷土の誇りである文化財の保存と活用 ③ 市民とともに考えともに歩む図書館づくり
	② スクラム・スクール・プランで推進 する子どもの育成	① 市民や団体が主体となり活躍できる地域づくり ② 市民の期待に応える人材の育成 ③ 効率的で柔軟性のある組織づくり
	③ 誰でもいつでもどこでも学べる 生涯学習の推進	① 安全・安心で最適な公共施設の運営 ② 経営感覚を生かした財政運営 ③ 市民の利便性を高める情報化への環境整備 ④ 市民ニーズにあった情報の提供と共有 ⑤ シティプロモーションの推進
	市民とともに経営する 自律したまち (経営管理)	① 安全・安心で最適な公共施設の運営 ② 経営感覚を生かした財政運営 ③ 市民の利便性を高める情報化への環境整備 ④ 市民ニーズにあった情報の提供と共有 ⑤ シティプロモーションの推進
		① 安全・安心で最適な公共施設の運営 ② 経営感覚を生かした財政運営 ③ 市民の利便性を高める情報化への環境整備 ④ 市民ニーズにあった情報の提供と共有 ⑤ シティプロモーションの推進
		① 安全・安心で最適な公共施設の運営 ② 経営感覚を生かした財政運営 ③ 市民の利便性を高める情報化への環境整備 ④ 市民ニーズにあった情報の提供と共有 ⑤ シティプロモーションの推進
		① 安全・安心で最適な公共施設の運営 ② 経営感覚を生かした財政運営 ③ 市民の利便性を高める情報化への環境整備 ④ 市民ニーズにあった情報の提供と共有 ⑤ シティプロモーションの推進

2 基本計画の構成と期間

第2次基本計画は、2部構成となっています。第1部「基本計画の策定にあたって」では、基本計画の位置づけ、構成と期間、本市を取り巻く状況と第1次御前崎市総合計画基本計画（第1次基本計画）の振り返り、将来に向けての課題と第2次総合計画策定の方向性、策定の経緯と計画の柱をまとめています。第2部「分野別施策」では、施策ごとに成果指標とともに記載しています。

計画期間は、平成28（2016）年度を初年度とし、平成37（2025）年度までの10年間とします。

3 御前崎市を取り巻く状況と第1次御前崎市総合計画の振り返り

第1次御前崎市総合計画では、基本理念を「自立と市民協働」と掲げ、将来都市像である「海と緑と笑顔が きらり輝く 御前崎」を目指してまちづくりを進めてきました。

将来都市像を実現するため、4つのまちづくりの目標を定め、実現に向けて重点的に施策を進めてきました。

1 市民の笑顔がきらり輝く地域づくり

市民の笑顔がきらり輝く地域づくりでは、旧浜岡町と旧御前崎町の両地域の融和が合併後の課題でしたが、それぞれの文化、産業及び体制の違いを、市民の意見を踏まえた新たなしくみづくりにより、御前崎市として一体化することができました。

まちづくりは、人づくりからの視点で、人々の関わりを通じて、地域ぐるみで豊かな人間性を育む様々な取り組みが進展しました。

一方、医療分野における市立病院を取り巻く環境は年々厳しさを増し、常勤医師の確保が課題で、今後は広域医療や開業医との連携、さらに地域医療のあり方が重要となっています。

2 生活、産業、まちがきらり輝く都市づくり

生活、産業、まちがきらり輝く都市づくりにおける大きな社会的背景では、平成20年9月にアメリカ合衆国で起きたリーマンショックと呼ばれる世界的な金融危機の

あおりを受けた急激な景気の落ち込み、さらには平成 23 年 3 月の東北地方太平洋沖地震に起因した東京電力(株)福島第一原子力発電所事故による同年 5 月の浜岡原子力発電所全号機停止など、第 1 次総合計画では想定していなかった事象が発生しました。

三方を海に囲まれ原子力発電所が立地する本市は、原子力災害への対策や、静岡県第 4 次地震被害想定に対する津波被害対策などが緊急の課題となっています。そのため企業の津波被害への懸念や原子力災害へのリスク軽減策などで新規立地は進まず、新たな財源や雇用の確保には至っていません。

交通インフラでは、富士山静岡空港の開港や国道 473 号バイパスの開通に伴い、陸、海、空の広域的な交通ネットワークが整い、御前崎港の利活用条件が向上しました。さらに、広域的な交通ネットワークを補完する幹線市道や、都市計画道路の整備が進みましたが、老朽化した交通インフラや記録的な豪雨対策が課題となってきました。

3 海と緑の自然がきらり輝く環境づくり

海と緑の自然がきらり輝く環境づくりでは、御前崎市が持つ緑豊かな自然の確保とともに、下水道整備が進み、河川の水質保全により快適な生活環境の形成が進みました。

東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故により、自然エネルギーが注目を集め、民間企業による太陽光発電施設の設置が急速に進みました。また、エコエネルギー導入への市民意識の高揚に伴い、家庭への太陽光発電設備導入をはじめ、新エネルギー・省エネルギー機器の導入が進み、環境負荷の少ない社会が築かれつつあります。

4 自立してきらり輝く御前崎市

自立してきらり輝く御前崎市では、市民意識においては、自分たちの地域は自分たちでつくるという意識が高まり、さまざまな分野で市民協働によるまちづくりが展開されつつあります。

財政面では、公共インフラの老朽化対策が課題となり、長期的な視点に立って、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行う、公共施設のマネジメントに取り組んでいく必要があります。

以上のように、第 1 次総合計画では、4 つのまちづくりの目標に向けてさまざまな施策を展開してきましたが、最も大きな社会的な変動は、急速な少子高齢化社会の到

来です。

第1次総合計画では、目標年次となる平成27年の総人口は3万5,900人を見込みましたが、実際には平成27年3月末の総人口は3万3,835人と人口減少は急激に進んでいます。さらに高齢化率は平成27年3末日現在で、第1次総合計画で想定した22.65%を3ポイントあまり上回る26.04%と、想定を超えるスピードで高齢化は加速しています。今後少子高齢化が加速することにより、さまざまな分野に大きな影響を及ぼすため、対策が急務となっています。

特に、生産人口の減少は、財政基盤の低下につながるため、自立したまちを目指すには、定住人口の増加策が最も重要な施策であるとともに、高齢者を地域全体で支える社会が目前に迫っているため、市民協働の意識を大切に育てていくことが重要です。

第1次総合計画の検証と現状分析の指標となる、「第1次御前崎市総合計画後期基本計画（第1次後期基本計画）評価に伴う平成27年度市民満足度調査」（※1）の結果では、満足度の低い項目順に、「地域医療の確保」「公共交通ネットワークの整備」「市内商店への支援体制」となりました。また、重要度が高い項目の順では、「地域医療の確保」「災害に強い防災体制」「子育てに適した環境づくり」となりました。特に、「地域医療の確保」については、他の項目に比べ、満足度が目立って低く、また重要度が高い結果となりました。

最も満足度が低く重要度も高いとされた地域医療の確保には、医師や看護師の慢性的な不足が続いていることに加え、市内に開業医が少ないこと、特に産科・産婦人科・小児科が市内にないことで、重要度が高い出産・子育て支援の継続的な医療の提供ができない環境が続いています。こうしたハンディキャップを克服するにはハードルは高いものの、医師派遣要請や医師・看護師募集に継続的に取り組むとともに、電子カルテでの情報共有など広域連携強化に力を注いでいく必要があります。また満足度が低い公共交通ネットワークは、路線バスの利用者減少と運転士不足が深刻であるという現状を踏まえると、市民ニーズに沿ったシステムへの転換が求められます。市内商店への支援も地元経済を支える商店に活力を与えることができるよう制度を工夫していくことが重要です。重要度が高い災害に強い防災体制も自然災害への対策と、原子力災害での避難計画が注目されるなか、実効性の高い計画を策定することが急務となっています。

【平成27年度 市民満足度調査結果】

項目	順位		
	1位	2位	3位
満足度が低い	地域医療の確保	公共交通ネットワークの整備	市内商店への支援体制
重要度が高い	地域医療の確保	災害に強い防災体制	子育てに適した環境づくり

（満足度が低く重要度が高い項目から抜粋）

※1 第1次御前崎市総合計画後期基本計画評価に伴う平成27年度市民満足度調査20歳以上の2,000人の市民を対象とし、毎年実施。第1次総合計画後期基本計画に基づいたさまざまな取り組みに対して、市民がどれだけ満足しているのか、どのくらい重要だと思っているのかを調査し、結果を施策や事業に反映することを目的としている。

4

将来に向けての課題と第2次総合計画策定の方向性

人口予測の基礎データとなる国勢調査人口は、その年の3月末日の住民基本台帳法による総人口と比べると、平成17年が96.02%、平成22年が95.98%となっています。したがって平成27年の国勢調査人口は3月末の3万3,835人に対して第2次総合計画基本構想では、3月末日の総人口の95.98%にあたる3万2,474人と想定しました。大きな課題として、まずは急速な人口減少にブレーキをかけるために、御前崎市の魅力を新たに発信し、改善すべき課題は速やかに解決することが求められます。

第2次総合計画では「第2次総合計画策定のための市民アンケート」（※2）の結果を参考に、本市の現状と課題を市民とともに整理しました。市民アンケートは、御前崎市全体と住んでいる地区に分け、それぞれ良い点と改善の余地がある点を調査しました。

【市民アンケート結果】

＜御前崎市における良い点＞

区域	順位		
	1位	2位	3位
御前崎市全体	自然環境	上下水道	緑地・公園

＜住んでいる地区における良い点＞

地区名	順位		
	1位	2位	3位
池新田	自然環境	催し物（お祭りなど）	地域のつながり、 公共施設
高松	自然環境	緑地・公園、地域のつながり	
佐倉	自然環境、地域のつながり		緑地・公園、 催し物（お祭りなど）
比木	自然環境	地域のつながり	上下水道
朝比奈	地域のつながり	自然環境	緑地・公園
新野	地域のつながり	自然環境	河川、催し物 （お祭りなど）
御前崎	自然環境	地域のつながり	特産物（食材など）
白羽	自然環境	地域のつながり	催し物（お祭りなど）
全体集計	自然環境	地域のつながり	催し物（お祭りなど）

（同数意見は複数記載）

良い点として本市全体では「自然環境」「上下水道」「緑地・公園」の順で高く、住んでいる地区では「自然環境」「地域のつながり」「催し物（お祭りなど）」の順で高い結果となりました。

また、改善の余地がある点として、本市全体では「医療」「公共交通網」「観光」の順で高く、住んでいる地区では「公共交通網」「医療」「道路網」の順で高い結果となりました。特に良い点は、本市全体も住んでいる地区も「自然環境」が際立って高く、改善の余地がある点は、本市全体で「医療」が突出する結果となりました。

【市民アンケート結果】

＜御前崎市における改善の余地がある点＞

区域	順位		
	1 位	2 位	3 位
御前崎市全体	医療	公共交通網	観光

＜住んでいる地区における改善の余地がある点＞

地区名	順位		
	1 位	2 位	3 位
池新田	医療	道路網	地域のつながり
高松	道路網	医療	介護・福祉
佐倉	公共交通網	安全（防犯・防災）	緑地・公園
比木	公共交通網	介護・福祉	医療、子育て
朝比奈	介護・福祉	安全（防犯・防災）、公共施設、公共交通網	
新野	介護・福祉	安全（防犯・防災）、医療	
御前崎	公共交通網	雇用	商工業
白羽	公共交通網	雇用	医療
全体集計	公共交通網	医療	道路網

（同数意見は複数記載）

魅力としては、ウミガメが産卵する海岸や温暖な気候、盛んなマリンスポーツ、自然の豊かさ、そのなかで育まれた新鮮な魚介類や農産物。次に、つながりの深い地域コミュニティ、温かい助け合い、地域に根差したお祭りなど、ゆったりとした生活ができる環境。そして、恵まれた財政力により整備された道路網や図書館、市民プールなどの公共施設が挙げられました。こうした本市が自慢できる特長は、しっかり市内外に発信していくことが重要であるという意見も寄せられました。

課題としては、病院や医師不足など医療体制の充実。鉄道がなく、バスの路線と本数が限られる公共交通網。そして、国内外からの誘客が求められる観光振興。また、市内に働く場所が少ないことへの懸念や原子力発電所の動向、今後の共生も重要な課題として挙げられました。

第2次基本計画の運用面では、第2次基本構想でも述べたように第1次総合計画の市民認知度が低いこと、職員からは第1次後期基本計画で目標値を設定したPDCAサイ

クル(※3)が十分に機能していない部分がみられたことも反省点として挙げられました。

第1次総合計画を振り返り、市民と行政が同じ認識で、本市の歩むべき方向をしっかりと定め、現状を見たとき、そのギャップをしっかりと埋めていくことが重要です。第2次総合計画基本構想でも述べたとおり、本市は誰もが安心して住みやすいまちを目指し、子どもたちに御前崎市をずっと好きでいてほしい、子どもたちが将来の夢を描き、希望を抱くことができるまちにするために、大人がその義務と責任をしっかりと果たし、「自律」した御前崎市を市民と行政が連携してつくることとしました。

※2 第2次総合計画策定のための市民アンケート

10代から70代の1,000人の市民を対象とし、平成27年3月に実施。本市や住んでいる地区の「ここが良いと思うこと」、「ここを変えたらもっと良くなると思うこと」、「住み続けたいと思うために、将来どのようなまちになってほしいか」について調査し、第2次総合計画策定にあたり活用することを目的としている。

※3 PDCA サイクル

当初の目的を達成するために Plan（計画）、Do（実行）、Check（確認）、Action（改善して実行）の順で業務に取り組むこと。この4段階を繰り返すことで、継続的に業務を改善していく。

5

策定の経緯と計画の柱

(1) オール御前崎で政策を推進

第2次総合計画は市民と行政が一体となって策定することを重視し、第2次基本構想の将来都市像や分野別の基本目標についても市民と職員がワークショップ形式による会議で対話を重ねて策定に取り組みました。可能な限り多くの職員が策定に関わることができるように、将来都市像の決定には職員による投票を実施し、分野別の基本目標は関係部署の庁内職員でプロジェクト会議を組織し、話し合いました。

また、市民満足度調査や市民アンケートの結果などのデータを参考に議論を進め、市民と職員との会議やタウンミーティングで寄せられた意見をもとに行政担当部署で議論を重ね、本計画を策定しました。

市民力や企業力、地域力、行政力を駆使して「オール御前崎で取り組む最上位計画」として強力に推進します。

＜市民・職員によるワークショップの様子＞



(2) 「子どもたちの 夢と希望があふれるまち 御前崎」の実現を目指した計画

子どもたちがよそへ出て自慢できるふるさとを残したい…。

子どもたちが「わたしは御前崎が大好きです」、「ぼくは御前崎出身です」と胸を張って言える故郷を次世代へつなげていく義務がある…。

こうした市民から寄せられた意見をもとに、御前崎市は将来都市像 「子どもたちの 夢と希望があふれるまち 御前崎」を実現するため、次の3つを重点に、固い決意をもって第2次基本計画を推進します。

- 1 美しい自然を次世代へ引き継ぎ、安全で安心できる居ごちのよいまちをつくろう。
- 2 結婚・出産・子育て・教育に御前崎市独特の魅力を確立しよう。
- 3 「来て・見て・食べて・働いて・暮らしてよし」の活力あふれるまちにしよう。

第2次基本計画は、人口減少を緩和するとともに、次世代を担う子どもたちへどのような御前崎市を残していくかという視点から策定しました。将来都市像を実現するためには、限られた人的、物的、経済的資源を計画的に投資していくことが基本となります。しかし、即効性の高い施策や事業にはタイムリーに集中投資することも念頭において、次の6つの分野の基本目標を実現していきます。

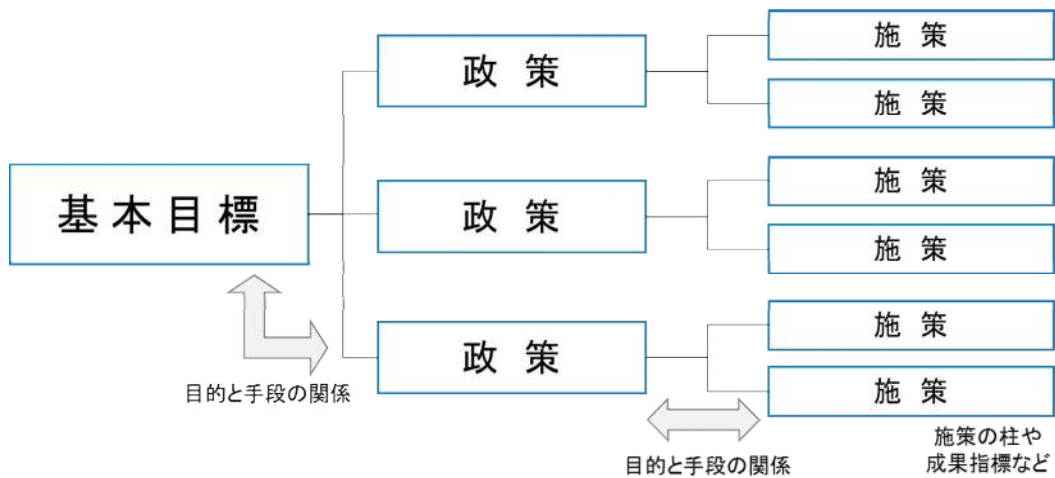
- | | |
|----------------------------|-----------|
| 1 美しい自然を次世代へ引き継ぐ安全・安心なまち | (くらし環境分野) |
| 2 市民協働による居ごちのよいまち | (都市基盤分野) |
| 3 すべての人が健康で安心して暮らせる 支え合うまち | (健康福祉分野) |
| 4 働く場所とにぎわいがたくさんあるまち | (経済産業分野) |
| 5 郷土を愛し 未来を創る 人づくり | (教育文化分野) |
| 6 市民とともに経営する自律したまち | (経営管理分野) |

第2部 分野別施策

1 基本計画における施策の体系

各分野別の基本目標を実現するための政策、施策をその目標とともに記載し、目的、手段、成果の関係を明確にしました。

【基本計画における施策体系】



2 施策評価の指標と運用

第2次基本計画は、各施策を「どの程度の成果があったのか」という視点から「アウトカム指標」（※1）を目標値として評価することとし、計画当初には各施策に少なくとも1つのアウトカム指標を設定するよう努めました。ただし、実績値の把握が困難であるなど、やむを得ない場合は、事務事業の活動やその結果を測定する「アウトプット指標」（※2）を設定しています。

これらの指標による評価に基づいて、定期的に成果をチェックし、運営の改善につなげていくPDCAサイクルを確立します。

評価や見直しの結果については公表し、市全体で共有します。また、目標の前提となる社会情勢などの条件が変化したり、目標値と進捗よくとのかい離が生じたりしたときは、その原因を分析し、必要に応じて目標値の変更を含めた見直しを行います。

※1 アウトカム指標： 活動した結果、質的にどの程度変化したかを表す指標。

※2 アウトプット指標： 活動した結果、量的にどの程度変化したかを表す指標。